非核・いしかわ

2023年8月20日　月刊第301号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は92か国、批准は68か国（8月15日現在）

1面　紙芝居『たみちゃんのノーモア ヒロシマ』完成披露　神田順一
2面　被爆ピアノとうたう会・報告　旭　泰子
3面　4年ぶりに長崎で開催　２０２３原水禁世界大会　新井田義弘
4面　長崎にて自分の平和運動を考える　岩木治美
＜独標＞春が来た　土井和子
5面　「国民IDカード＋健康保険証」強制一体化の行く末　中村昭一
6面　戦時下の「幻の甲子園」　柴原和美
ゲンは世界を駆け巡る　白﨑良明
佐野正春は何を届けようと　佐藤正幸
8面　戦争遺跡と平和の記念碑　佐藤公男
絵手紙コーナー　竹味恭子

「平和のパネル展」オープニング・セレモニー
紙芝居『たみちゃんのノーモア ヒロシマ』完成披露

神田順一

八月二日、石川県庁一九階交流スペースで開かれた「平和のパネル展」オープニング・セレモニーで、紙芝居『たみちゃんのノーモア ヒロシマ』の完成披露公演がおこなわれた。

この紙芝居は、四歳のとき広島で被爆した西本多美子さん（元石川県原爆被災者友の会会長）の被爆体験と、戦後の多美子さんの被爆者運動、反核・平和運動の歩みをもとに、石川からの核兵器廃絶の願いを込めて、「平和の子ら」委員会が創作したもの。

紙芝居は全一六場面あり、文は西本さんの被爆証言や戦後の歩みから「平和の子ら」委員会が練り上げたもの。絵は元美術教師のしょうだ律子さんが担当。定価二〇〇〇円（税込）

・・・・・・・・・・・・・・

「平和の子ら」委員会は、金森俊朗さん、西本多美子さんらの呼びかけで教員OBを中心に二〇一八年一〇月に発足し、二〇一九年六月にCD『平和の子ら―石川発・被爆者の想いを歌いつなごう』を制作、二〇二〇年一一月に岩佐幹三さんの歴史紙芝居「戦いはまだ終わらない」を制作しており、今回の創作紙芝居は三作目となる。

七月二九日の同紙芝居の完成披露記者会見には、テレビ局三社、新聞社四社の取材があり、注目度も高く、二日の完成披露公演には八〇人余の参加者があった。

本番では「平和の子ら」委員会の演者三人が、多美子さんの被爆当時の実相、大人になってからの被爆者運動、岩佐幹三さんとの出会い、核のない平和な

紙芝居『たみちゃんのノーモア ヒロシマ』表紙

花鳥風月

二一世紀に入るや、世界的にマスメディアの変貌ぶりが著しい。わが国でも、とりわけ商業新聞やテレビ放送の激変には驚くばかりで、毎年、新聞の発行部数が二〇〇万部クラスのメディアが一つ消滅しているという。テレビ番組の内容も大きく変化し、ソーシャルメディアの前進、プラットフォーム企業の台頭など、デジタル化への転換を急ぐ経済社会が背景にあります▼こうした世界的な傾向とは裏腹に、石川の革新運動における情報媒体を見ると、例えば、リーマンショックの頃から始まった『資本論』学習会の交流誌・季刊『コスモス』が注目されます。サブタイトルに「未来を拓く学びのひろば」とあり、二〇一八年の創刊から六周年を迎え、今では多彩な投稿で賑わっています▼一方、弊紙『非核いしかわ』は二〇一一年一月（一五〇号）から、前者に先がけて集団編集に移行、一五二号から東日本大震災と福島原発事故の特集に取り組みました。それから一二年の今日では、地域の革新運動における『情報の交差点』とも評され、非核・平和の世界実現に向け一定の役割を果たしています。この度、新しい編集体制一二年の節目にあたり、三〇〇号を記念して「会員エッセー＆コラム」第三集が刊行されました。（こ）

世界をめざして懸命に歩んでこられた系譜、などの場面を交代で読み上げ、大好評だった。

心を込めて紙芝居の文を読み上げる奈良良子さん

この創作紙芝居は三〇〇部制作した。学校教材や地域文庫、非核平和団体等で広く活用されることを願っている。

（「平和の子ら」委員会）

◎紙芝居の問合せ先

「平和の子ら」委員会
事務局長　川崎正美
電話・FAX
〇七六―二五五―五二三二
メールアドレス
dgs-kawa@asagaotv.ne.jp

「平和のパネル展」セレモニーには８０人以上が参加

いろいろな人とのつながりが平和を作ることを教えてくれた被爆ピアノ

旭　泰子

五年前、私は、知り合いの方から、被爆ピアノのことを紹介されました。その時は、知り合いの現職の教員のつてで、五校の学校で、被爆ピアノコンサートを行うことができました。ところが、今年、被爆ピアノは、七月一六日に金沢に来るという。コロナが収束しかかり、やっと日常が戻ってきたようなこの頃。でも、残念ながら、一六日は、学校が休みなので、学校コンサートというわけにはいきません。被爆ピアノは、いろいろなところで、有名なピアニストがコンサートすることも多々あります。しかし私は、「このピアノは、家族や親せきが弾いて楽しんでいた戦争が厳しくなる前と、ピアノが弾けなくなった戦時中のことを知っている。そして、あの原爆の恐ろしさも知っている。」このピアノの声をそれぞれが心の声で聴ける、触れる会にするべきだと思っています。

どのような会にしようかと、迷っていた時、周りの人が、金沢うたごえの会につないでくださいました。そしてまた、その方が、「平和の子ら」委員会の方につなげてくれました。そうして輪が広がり、「被爆ピアノとうたう会」実行委員会が立ち上がり、七人の実行委員がそれぞれの持ち味で動くことになりました。

被爆ピアノの経緯を話す矢川光則さん

チラシなど、パソコン関係、会としてどう進めるかは、大田さん。歌に関することは、我が紫金草合唱団団長中村さんを中心にピアノの増田さんと。歌の歌詞、プロジェクターは、うたごえの会の神田さん。会場図や募金箱、掲示は元図工の先生の照田さん。メディア対応、大森さん。退職女教師の会から柴田さん、印刷を一手に引き受けてくださいました。

本当に、みんなの力で、当日を迎えました。それぞれの会から、たくさんお手伝いの方が来てくださり、準備もてきぱきと！片付けも本当に素早く！もう。感謝感謝！です。

本番は、会場と開始まで二〇分しかなかったのに、用意した八〇冊の楽譜はすぐなくなって、なんと九〇人以上の方が来て下さいました！それも、お孫さんやお子さんを連れた方、いろいろな合唱団の方、普段合唱をした事のない方も歌の好きな車椅子の方も。遠く、能登の方から来てくださった方も。「懐かしい方、意外な方に会ったりして、心から平和を歌えてとてもいい会でした。」「さんぽの歌の時、孫が興奮して叫んでいました。」

「たくさんの人と一緒に歌え、楽しく幸せな時間を過ごすことができました。被爆ピアノを見ながら聴く絵本朗読もとてもすてきで、心にしみました。普段あまりお会いしない人たちと、一緒にあえて、ワクワク感もありました。久しぶりに会った友だちは、『長い間歌ったことなかった。よかった！』と感激していました。」などなど、たくさんの感想をいただきました。本当にいろいろな人がいて、いろいろな人の声が合わさって素敵な会になったのだと思います。

被爆ピアノとうたう会には90人以上が参加
（7月16日、石川県庁19階交流スペース）

来てくださった皆さんのおかげです。

知らない人も、歌でつながる。ピアノが弾ける平和。歌が歌える平和。みんなが集える平和。被爆ピアノが教えてくれました。こうしたつながりが平和を願う世論となるんだということを。

（「被爆ピアノとうたう会」実行委員会）

四年ぶりに長崎で開催
二〇二三年原水禁世界大会

石川県原水協事務局長　新井田義弘

八月四日から八日に二〇二三年原水禁世界大会が開催されました。今年は長崎大会（七～九日）がメインで、石川県代表団は一〇人で、半数が青年でした。私が長崎大会に参加するのは三五年ぶり三回目です。

長崎大会に参加した石川県代表団の皆さん

台風の直撃を受けることへの心配が広がるなか、大会実行委員会は九日の閉会総会を八日に繰り上げました。石川県代表団は八日最後まで参加して、九日朝一番の新幹線に乗りました。そのあとの電車は運行休止になりました。そういえば昨年も、帰りの米原―福井間が集中豪雨で通行止めになって東京経由で帰ったのを思い出しました。今年もまた心配をおかけしました。無事に帰れてよかったです。

台風に翻弄された面はありましたが、開会総会・分科会・閉会総会ともそれぞれ中身が濃いものだったと思います。そして高校生の奮闘はじめ、各分野・地域での「核兵器禁止条約に日本こそ参加を」の取り組みの奮闘・努力の広がりを感じました。また沖縄・南西諸島のミサイル基地化反対のたたかいにも触れることができました。

分科会でも石川県代表団の中でもいろんな意見・感想の〝語り合い〟がありました。

◎第一分科会では、ロシアとアメリカの代表からの報告・発言があり、参加者から「この両国の代表が隣り合って座って平和を語り合っている姿に感動した」との発言があったり、「NATOの拡大は第三次世界大戦が近づいている感じがする」などの発言も。

◎核兵器は戦争の抑止力にはならないことは理屈ではわかるが、それを克服するためにどんな運動が展開されているのだろうか。あまりよくわからない。

◎原爆の投下・核兵器の使用を「長崎を最後に！」、そのためには原爆使用のむごさ＝「人」として生きることも「人」として死ぬことも許さなかったことを映像で、写真で、絵で、語りで知らせ・知ってもらうことが必要だと実感した。各地で実施している「原爆展」はとても大事だ。

平和行進の山内金久さんと再会

平和行進の全国通し行進者を務めたトランペット奏者の山内金久さん（東京板橋原水協）と再会しました。開会総会で「青い空は」を演奏されていました。

全国通し行進者の山内金久さん（中央）と長崎大会会場で再会しました

11月にニューヨーク行動を！

日本原水協が呼びかけて

代表団派遣　要綱近く発表

今年一一月に開催される核兵器禁止条約第二回締約国会議（ニューヨーク国連本部）に向けての現地参加と現地行動が呼びかけられました。近く参加者募集要綱が発表されます。石川県原水協からも代表派遣できるといいですね。

原水禁世界大会の報告会

8月21日(月) 18時～19時

石川勤医協会館　3階ホール

原水禁世界大会の報告集

9月半ばに発行

１５００円。予約受付中

長崎にて自分の平和運動を考える

岩木治美

平和行進・出発式で挨拶する岩木治美さん

平和行進六年目で思うことは本当によく続いたと思う。また歩くことで何をつかんだのかとも思う。

労働組合の時は義務かなあ、と思って歩いて、早く終わらないかとも。

退職後やりたいことが二つあった。一つは国立病院をすべて回ること、組合加入し二三六支部があったが、今は一九六支部か・・・でも楽しくもさみしくもあった。もう一つは平和行進で北海道から東京まで歩くこと・・・それがなぜか石川県内を六回も歩いた。三年目からは娘夫婦は「六月のライフワーク」と話して協力もしてくれた。歩いていて、地域の皆さんが待っていてくれる、声かけ・・・その時、相手の立場になって気づかされること、考えさせられることの大切さを教えてもらった。

また自分の人生での生き方のメリット、デメリットもわかり、人に伝える難しさから今の過程にあったものを見つけて生かし、声に出していくこと、それが平和に一歩一歩、近づくことではないのか、と。

原水爆禁止世界大会・長崎大会に参加して、「平和と気候の関係」で学んだことは気候が安定していないと平和もない。海の中のゴミ、特にプラスチックゴミ、このゴミが何から出来ているのか。私たちの生活に役立っているのか、それとも必要なく代替で出来るのか、今の生活をチョット立ち止まって考えてみて、昔の生活はどうだったか・・・本当に思い知らされた。

やっぱり気候も考えなくてはと思う。特に長崎大会が三日間だった日程が台風で二日間に、やっぱり気候によって自分達の思い通りにならない、平和運動もそうではないのか。

平和とは人権と民主的自由ではないか？　長崎大会で思ったことは知ることが希望であり、気づきとなる。労働組合は、現状を分析し、今までと違うやり方、創造力を駆使し、考える力、団結力を持ち、そのための環境づくりが一番必要でないかと。

人を生かし、人に生かされ、できるか、できないかでなく、やるか、やらないかでないかと気づいたら行動に生かす。このような自分の生き方を今後も歩き続けたいと思う。少し背伸びした私を来年の平和行進でも見てください！

詩人会議かなざわ「独標」より

春が来た

土井和子

キラキラ降り注ぐ眩しい光
さやさや流れる風
春の便りに大地がざわめき
花たちが　草たちが目覚めると
気分屋の春の風に追われるように
花たちのバトンリレーが始まった

異次元の少子化に対応するため
こども家庭庁が創設された
国が子育てを応援するという
出産までの親に寄り添い
育つ子供にはより丁寧に
難しい病を抱える子供にも医療で支える
子どもと親を守る国になるという
特別なカメラをつけたゴーグルから
見える仮想現実で終わるかもしれない
子育ては迷いの連続
途方に暮れる母や子に安心を与えられるか
こども家庭庁は本気度が求められている

今　世界は自国の論理を歪曲して主張すれば
紛争になる火種があちこちに見えている
大切に育て上げ未来に希望を持つ命を
戦争の盾にしてはならない

桜が散り始めたらしいが
華やかな花見に縁がなかった
突然の強い風に驚いていると
どこから迷い込んだのか
ひらひらと花びらが舞い
私にも春が来た

時の焦点

『国民IDカード＋健康保険証』強制一体化の行く末

中村昭一

日本はデジタル後進国だからとアメとムチで政府が進める「マイ」ナンバーカード。だが、国家が策定した国民ID（国民識別番号＝国民共通番号）と健康保険証を強引に一体化させる国は、先進七カ国（G七）では日本だけ。そもそもこれを否定する国もあれば、制度導入後に政権交代で廃止された国もある。何故かというとナチス・ドイツによる行いへの反省があるためだ。ナチスは「共通番号」によってユダヤ人らをあぶり出した。つまり、住民の選別、国民の統制に使われた歴史の事実がある。現在、ドイツやフランス、オーストリアでは、各行政機関によって異なる番号を用いて管理している。この〝異なる番号〟というのが大事なところだ。しかし調べてみると、これを押しつけたい側の都合の良い表示が多く、この正体を見極めるのは容易でない。

◆強引な一体化をすすめる理由

なぜ日本は強引にこの独自路線を歩もうとしているのか。それは、各人が納めた税と保険料の額と、社会保障として給付された額を、比較できる負担と受益の個人会計を作らせて可視化し、〝この人は負担が少ないのに受益が大きい〟などと指摘して、負担増や給付削減を狙うものだからだ。当初は個人データの活用は前面になかったものの、やがてはマイナポータルへと導きだし、納税状況、年金などの保険料の納付状況、公金受取口座、健康診断結果、生活保護や児童扶養手当や雇用保険の支給など、二九分野の膨大な個人情報がヒモ付けられ、国家管理がすすめられている。この拡大が本来の狙いだろう。行政サービスを便利に受け取れるが取得は任意、と言っておいて導入させて、やがては膨大な個人情報を自らの管理下に置くというのは、詐欺と同じだ。

◆最高裁「合憲」判決の根拠を無視

思い返せば日本では、氏名や住所などの本人確認情報を管理する住民基本台帳ネットワークシステム（住基ネット）をめぐって、プライバシー権を侵害し、憲法に違反する、などとする住民訴訟が各地で相次いだ。しかし最高裁は〇八年、住基ネットは「合憲」と判断。個人情報を持っているのは各行政機関、各自治体であって、国家がそれらを跨ぐ形で無差別に名寄せ（分散した情報の一元管理）をできないようにしているからこその「合憲」だったのに、案の定、いつの間にか反古同然にされた。

◆ビッグデータは儲け話に

これらの動きの震源地は、結局は財界だ。二一年の個人情報保護法の改定で、匿名の加工情報は個人を識別できないとして、国の行政機関だけでなく、自治体も保有する個人データをビックデータとして、企業に提供することが可能になった。経団連は、〝デジタル化を推進し、信頼性のあるデータを使わせろ〟と要求している。健康保険証と国民IDカードの一体化は、将来的には医療機関の電子カルテと診療報酬がリンクされ、ビッグデータとして製薬会社などの医療ビジネスに提供されていくのは確実だ。

◆健康保険証は給付権利の証明書

そもそも健康保険証とは何か。憲法に基づき国家には国民の健康権の保障が義務付けられており、その給付を受ける権利を証明するものが保険証である。この人権は「利便性」と交換できない。

◆歯止めなき情報集約の行く末

このような歯止めなき情報集約の延長線上にあるのは何なのか。GPS、町中に張り巡らせた監視カメラ、顔認証システムにつなげたら、番号一つで丸裸の監視社会の到来だ。考え過ぎと言い切れまい。

納税者番号や旅券番号や免許証や健康保険証の番号がそれぞれ違って不都合なのは庶民ではなくお上。これまで通り必要に応じて本人確認すればよいだけの話。金子みすゞではないが、みんな違ってみんないいのだ。

お上はやがて生まれたての赤ん坊にICチップの類を埋め込もうと言い出すのではなかろうか。そしてずっと先に姓名は失われ、戒名の類も番号になる時代が来るのだろうか。そんな悪夢はお断りだ。

（本紙編集長）

県内政党に意見を聞く会
どうする！？
マイナンバーカードと健康保険証の一体化

日 時　2023年9月10日（日）14：00～16：30
会 場　近江町交流プラザ 4階集会室

報告と問題提起

医療現場から：藤牧圭介さん（石川民医連事務局次長）
法曹界から　：岩淵正明さん（弁護士）
主 催　いしかわ市民連合

◎同封の案内チラシをご参照ください。

非核石川の会リレーエッセー

戦時下の「幻の甲子園」スポーツを国威高揚に利用

柴原和美

スポーツを政治や国威高揚に利用する例はいくつかあります。ヒトラーが、ナチス・ドイツの国威高揚とプロパガンダに利用したとして、一九三六年の第一一回ベルリンオリンピックは有名です。オリンピック聖火リレーもこの時始められ、ドイツ国民、若者をナチスへひきつけるプロパガンダとして利用したいナチス政権の思惑にぴったりでした。

ナショナリズムを煽るという点でも、二〇一六年のリオデジャネイロオリンピックに参加する日本代表選手団の壮行会で、森喜朗東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長が、挨拶の中で「国歌も歌えないような選手は日本の代表ではない」と発言したことが話題になりました。

春・夏の高校野球は、国民的行事として野球ファンでなくても大きく盛り上がります。この高校野球も、一九四二年から一九四六年の五年間は、戦争のために春も夏も地方予選大会すら開催されませんでした。

しかし、一九四二年の八月に、「幻の甲子園」と呼ばれる「全国中等学校錬成野球大会」が朝日新聞社ではなくて、文部省とその外郭団体の大日本学徒体育振興会によって「戦意高揚」を目的に、甲子園球場で開催されたのです。

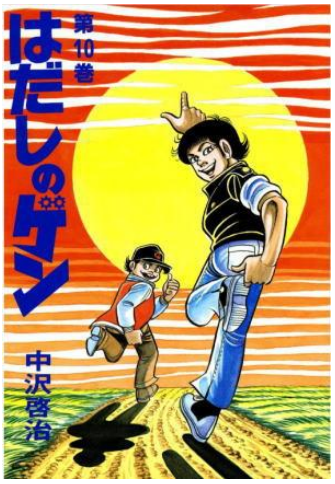
進行の大半を軍が担い、軍事色の強い大会となりました。スコアボードには「勝って兜の緒を締めよ 戦い抜こう大東亜戦」というスローガンが掲げられ、選手のユニフォームのロゴは、ローマ字は禁止され漢字で書かれました。試合開始前のあいさつは整列して「敬礼」、試合開始はサイレンではなく進軍ラッパが使用されました。

選手は「選士」と呼ばれ、「打者は球をよけてはいけない。球に当たっても死球にならない」「原則として一チームあたりの選手数は九人とし、「戦場で兵士は交代できない」という理由から選手交代は禁止するという特別ルールが採用されたのです。こうなると、もうスポーツとは呼べなくなってしまいます。

スポーツを「国威高揚」などの利用しようする動きには、もっと警戒が必要なのではないでしょうか。いつの間にか、応援で無意識に「ニッポン」と叫んでいませんか。

被爆七八周年 ゲンは世界を駆け巡る

白﨑良明



八月六日、日曜日だったのでYou Tubeで配信される広島の平和記念式典にWeb参加した。せみ時雨の暑いヒロシマを想起して黙とうをささげ、涙した。

広島市長は、核抑止論は破綻している、国は一一月の第二回核兵器禁止条約締結国会議にオブザーバー参加し、戦争被爆国として役割を果たし核兵器禁止条約への署名・批准をするよう求めた。広島県知事も核兵器は廃絶以外ないと明言。被爆者と国民の思いを受け止めた挨拶に拍手。

人の在り方、被爆者への感謝と社会的責任の決意を述べた子ども代表の「平和への誓い」に共感。無味乾燥な岸首相の挨拶には怒りを覚えた。

今年は漫画「はだしのゲン」連載開始五〇周年で、広島はじめ、広く記念行事が行われている。核戦争を防止する石川医師の会は今冬、加賀市の小中学校に一五セットを寄贈した。また、はだしのゲンをひろめる会も、事務局の奮闘で全国の都道府県立図書館に日本語版・英語版五五セットを寄贈した。

広島市教育委員会が学校教材「平和ノート」から「はだしのゲン」を削除したことが、全国で問題となり、私達も抗議声明を送ったが、現地のマスコミ、朝日・毎日関連のメディアも、数多く取り上げ、また、「はだしのゲン」外国語版の翻訳者にも取材が殺到した。

ロシア語版、英語版の翻訳をされた浅妻南海江様はNHKの取材で国内、ロシア語向け国際放送でも思いを語られた。外国語版翻訳者の想いが「ゲンの翼」としてYou Tubeで配信されているので是非、みていただきたい。ゲンに元気をもらい歩みたい。

・・・・・・・・・・・・・・

この原稿を書いているときにビッグ・ニュースが飛び込んできた。

二〇一七年ノーベル平和賞を受賞したICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）とオランダ最大の平和団体PAXは「核兵器にお金を貸すな（Don't Bank on the Bomb）」キャンペーンを進め、反核医師の会も応援してきた。

今回、日本生命はこのキャンペーンに応えて、社会的使命と重要な社会的課題への対応を強化する観点からクラスター弾、生物・化学兵器、対人地雷に加えて核兵器をスクリーニング対象に拡大し、核兵器製造にかかわる投融資を禁止することを決めたという。

国際的な規範として核兵器禁止条約が企業方針を変えさせた、素晴らしい運動の成果である。

佐野元春は何を私たちに届けようとしたのか

佐藤正幸

昨年二月のウクライナ侵略もあって、ミュージシャンの桑田佳祐が呼びかけ、佐野元春、世良公則、Char、野口五郎が参加したバンドによる「時代遅れのRock'n'Roll Band」が五月配信され、昨年末の紅白歌合戦に出場したことは記憶に新しい。

彼らは「この頃『平和』という文字が朧げにかすんで見えるんだ」。しかし「No More No War」と歌った学生時代、佐野元春の「SOMEDAY」を聴き、カラオケで歌った世代として誇りに思ったものである。その佐野元春の、昨年七月に発売されたアルバム「今、何処」をベースにしたコンサートに参加して驚いた。流れた曲は「植民地の夜」、彼は「今夜もまた　電卓はじいて笑ってる　特権階級気取った連中が　朝まで踊ってる　この植民地の夜」と歌う そして「斜陽」、「ブルジョワな妄想　みんな放り出して　今すぐ　ここから逃げ出したいんだ…でも　ひとつだけ　約束してほしい　君の魂　無駄にしないでくれ」。

この国の有り様を目の当たりにして佐野元春は何を私たちに届けようとしたのか…音楽だから、いろんな受け止めや解釈があるのは当然だと思うが、私には、佐野元春は私たちと同じ地平にいるように感じた。

今は亡き忌野清志郎の、一九九八年一〇月発表の原発ソングが販売中止、かつて彼は「俺はまるで共産党員みたいだな。普通にロックをやってきただけなんだけど。そうだよ、売れない音楽をずっとやってきたんだ」と語ったという。

・・・・・・・・・・・

今年の広島・長崎の平和記念式典で、両市長は核抑止論を批判し核兵器禁止国際条約への参加を呼びかけた。この分野に限らず旧来の古い政治は行き詰まり、変革を求めている。昨年発売の佐野元春の初回限定版アルバムはすでにプレミア価格となっており、迷った末手にいれた。昨年末録画したはずの、桑田佳祐・佐野元春ら出演の「紅白歌合戦」はなぜか早々に録画が中止されていたことが悔やまれる。

編集室より

◎この夏の異常な暑さを思えば『人新世（新人世）』の用語も故無きことでない。この語の概念が根拠とする仮説は「グレート・アクセラレーション（大加速）」と「プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）」の二つらしい。前者は社会経済システムと地球システムの一二の指標が二〇世紀後半から急速に上昇傾向にあるという仮説で、後者は人類がもたらした変化が地球の限界を超えつつあるという警告を含む仮説だ。

特に後者の、ティッピングポイント（引き返し不能点）を超えると、地球というシステムは恒常性を維持するフィードバックが働かず、予想がつかない振る舞いをする可能性が高まるようだ。

しかし現人類には、ティッピングポイントというものが存在するという人間としての自覚があるのか、本当に心もとない。故・森村誠一さんの『人間の証明』は、人間性の回復とその追求こそがその証明だ、と示した。今こそ傾聴に値しよう。（中）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
8	26	土	11:00	「はだしのゲン」50周年記念・映画上映・紙芝居	金沢市暁町・おしゃべりCaféめてみみ
	27	日	14:00	いしかわ県民教育文化センター・夏の交流研究集会／紙芝居「たみちゃんのノーモアヒロシマ」	金沢市富樫・教育プラザ富樫 131研修室
9	3	土	13:30	高松歴史街道フェスティバル／佐高 信さん講演会	かほく市・高松産業文化センター
	9	土	13:30	国賠同盟石川県本部総会記念講演／吉田万三さん	金沢市青草町・近江町いちば館 4階研修室1
	10	日	14:00	いしかわ市民連合／県内政党に意見を聞く会	金沢市青草町・近江町いちば館 4階集会室
	16	土	14:00	戦争をさせない石川の会・講演会／西尾慧吾さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座 3階会議室
	30	土	14:00	石川憲法会議・講演会／纐纈 厚さん	金沢市青草町・近江町いちば館 4階集会室
10	1	土	14:00	核禁条約署名連絡会「声をあげる高校生たち」上映＆斉藤とも子さんトークイベント	金沢市下本多町・金沢歌劇座別館 3階大練習室

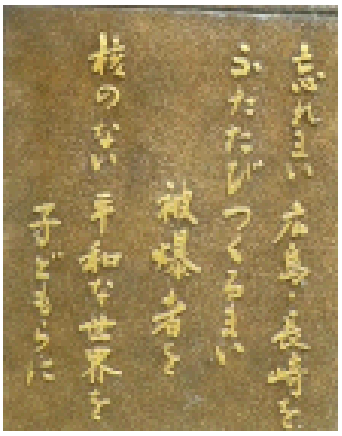
＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費2，000円

戦争遺跡と平和の記念碑 ⑧

被爆者

佐藤公男

「平和の子ら」像



原爆犠牲者慰霊碑「平和の子ら」像（右）と碑文

「平和の子ら」像は一九九八年八月、国や県、金沢市、町村会の助成と、被爆者・遺族・平和を願う多くの県民の募金により、金沢市末町卯辰山公園内に建立された。碑文には『忘れまい　広島・長崎を　ふたたびつくるまい　被爆者を　核のない平和な世界を　子どもらに』と刻まれている。

毎年夏に反核・平和おりづる市民のつどい「ピースデイ」が開かれ、県内の子どもたちから折り鶴と「平和の誓い」が寄せられる。

「被爆アオギリ二世の木」

大乗寺丘陵公園に植樹した被爆アオギリ二世

二〇一五年四月一一日、石川県原爆被災者友の会は広島から被爆アオギリの苗木を取り寄せ植樹した。銘盤に「一九四五年八月六日　広島に投下された原爆の却火に焼かれながらも　強く生き続けたアオギリの二世を　被爆七〇周年を記念して　ここに植樹します」とある。写真は金沢市長町大乗寺丘陵公園見晴らしの丘（上部駐車場）付近のアオギリ。

語り繋ぐ被爆体験

西藤康廣さん

（加賀市山代温泉在住・89歳）

西藤さんは当時小学六年生、終戦直後の八月一六日に疎開先から実家へ戻った際に二次被爆した。「広島市全体が墓場、地獄だった」という。

二〇〇五年、四三歳の長男を肝臓がんで亡くし、民間企業退職後は温泉療養のため加賀市に移り住んだ。ヒロシマ・ナガサキの原爆を扱った朗読劇「この子たちの夏」終演後の交流会での発言をきっかけに自らの被爆体験を語り始めた。

2022年10月22日、平和工房・江沼の郷でおこなわれた西藤康廣さん㊨の被爆証言会の様子

「戦争を知らない世代に真実を伝えたい」と、地域のサークルや学校などで「語り部」として証言活動を続けている。

（「平和工房　江沼の郷」主宰）

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合

絵手紙班　竹味恭子

2023.8.15 発刊　A4判164頁　定価2000円

百年前の日本が戦争に突き進むなか、大衆娯楽誌は何を伝えたのか

戦時グラフ誌『歴史寫眞』

が伝えたこと　伝えなかったこと

平和工房・江沼の郷が所属する戦前の大衆娯楽誌『歴史寫眞』を通して、戦争の記憶と記録を次の世代にどう伝え、何を学ぶのか

著者＝佐藤公男（平和工房・江沼の郷）　大川陽一（大川デザイン事務所）

＜問合せ＞佐藤公男　電話・FAX 0761-74-6771　携帯 090-9766-0287